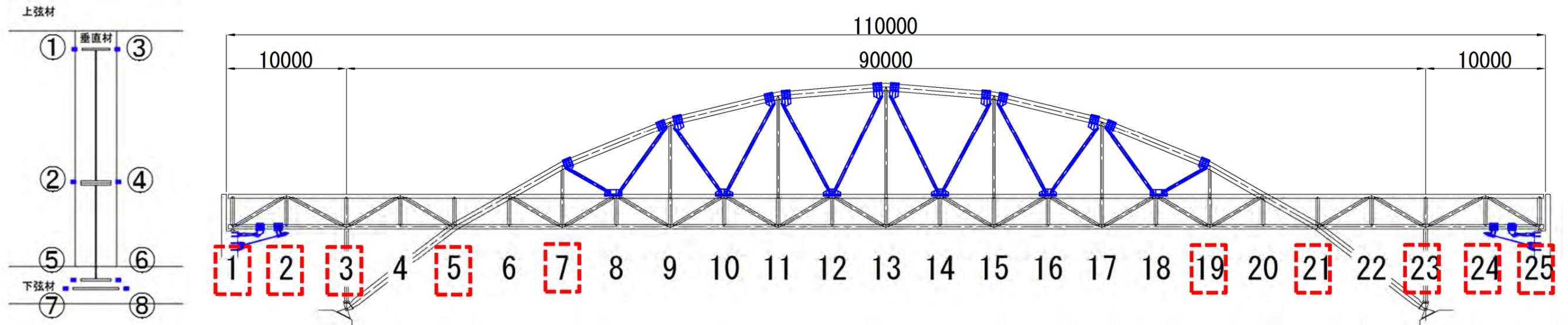


# 応急対策状況

第4回伊達橋補修検討委員会資料

平成27年6月12日

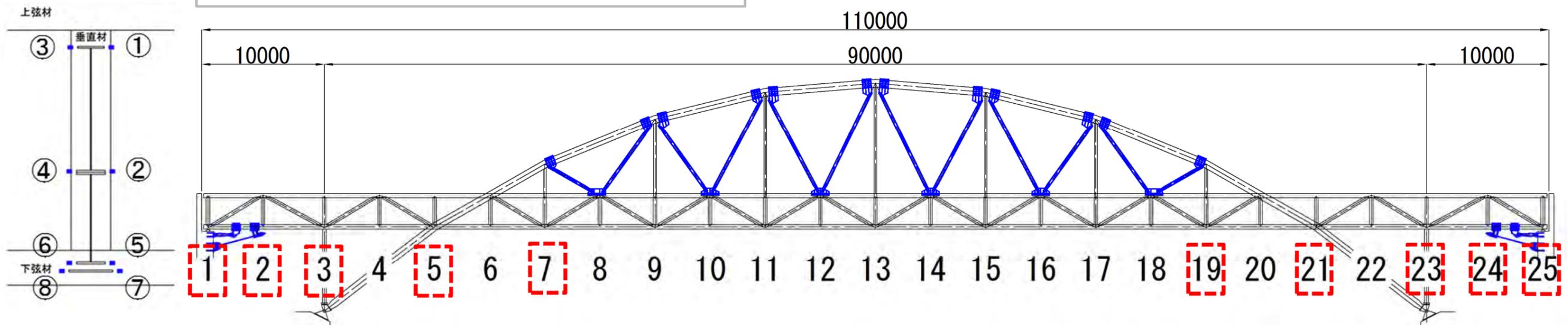
# 【伊達橋】損傷箇所図：VPL



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
①																										
③																										
②																										
④																										
VPL ⑤																										
⑥																										
⑦																										
⑧																										
支承																										

----- : 亀裂切削除去    ○ : SH箇所    — : 亀裂

# 【伊達橋】損傷箇所図：VPR

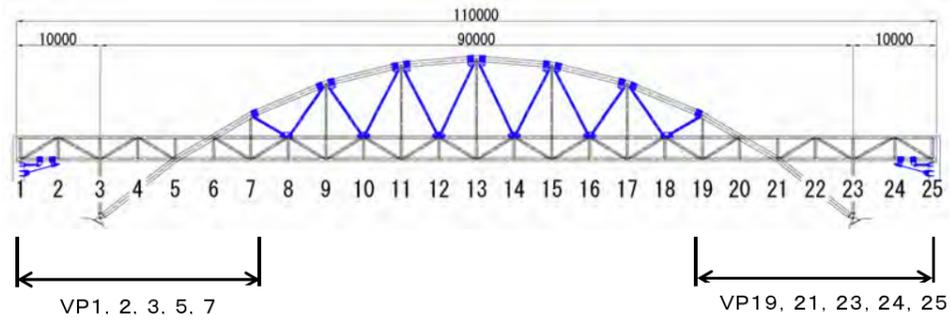


	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		
①																											
③																											
②																											
④																											
VPR ⑤																											
⑥																											
⑦																											
⑧																											
支承																											

: 亀裂切削除去     
  : SH箇所     
  : 亀裂

■ 応急対策状況【横桁と垂直材の接合部】

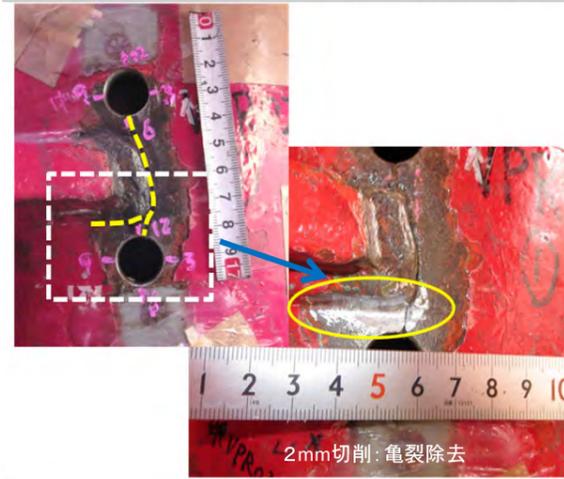
1. 亀裂発生箇所



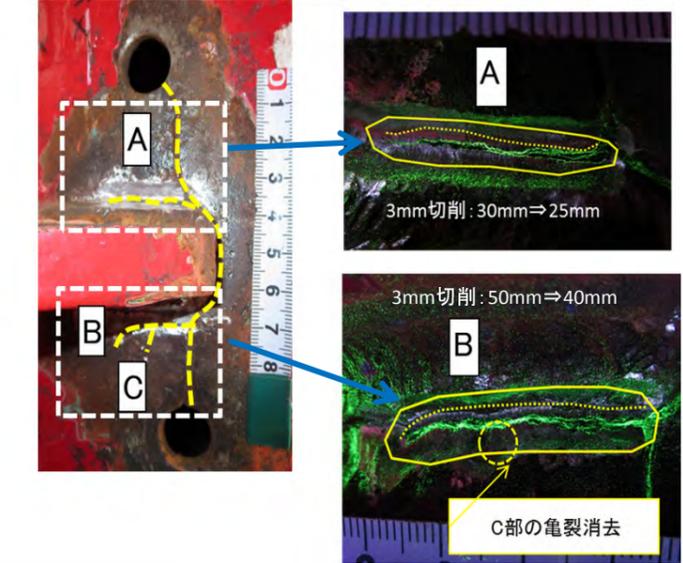
2. 対策状況

- ・横桁と垂直材接合部：全ての箇所においてストップホール（以下、SH）及び亀裂切削を実施
- ※部分的な対策も含む：亀裂枝別れ、ビードに留まる亀裂

枝別れした亀裂が切削により除去出来た事例（VPR02-①）



枝別れした亀裂が切削により除去出来なかった事例（VPL24-③）

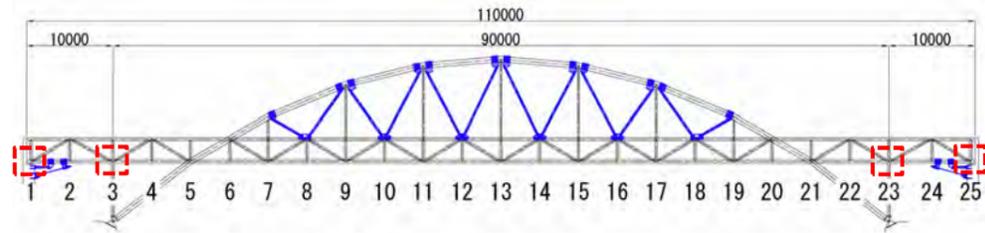


○ : SH実施済み      — : 亀裂      - - - : 切削除去

	VP01	VP02	VP03	VP05	VP07	VP019	VP021	VP23	VP24	VP25
VPL ①										
③										
④	亀裂なし		亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし		亀裂なし
VPR ①										
③										
②	亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし	亀裂なし		亀裂なし		

■ 応急対策状況【下弦材】

1. 亀裂発生箇所



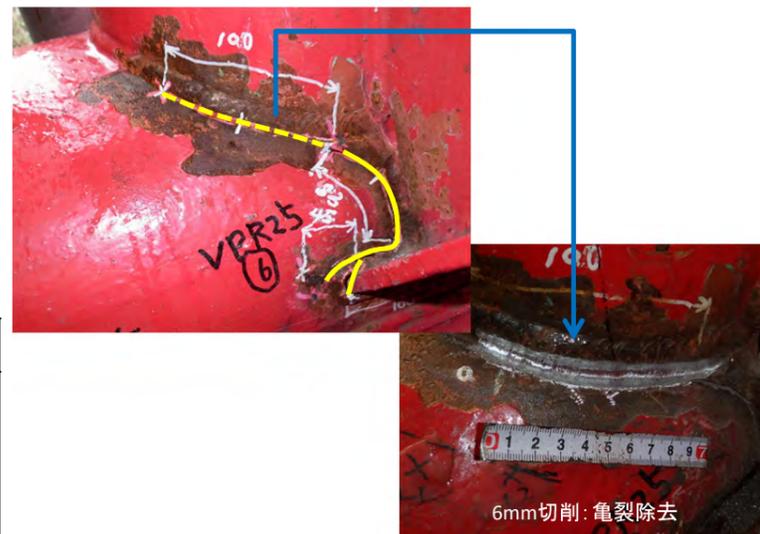
2. 対策状況

- 母材まで進展している亀裂についてはSHを実施  
※亀裂先端を捉えていない可能性がある（ラメアテアのように母材を裂く傾向）
- ビードに留まる亀裂に対しては亀裂切削を実施

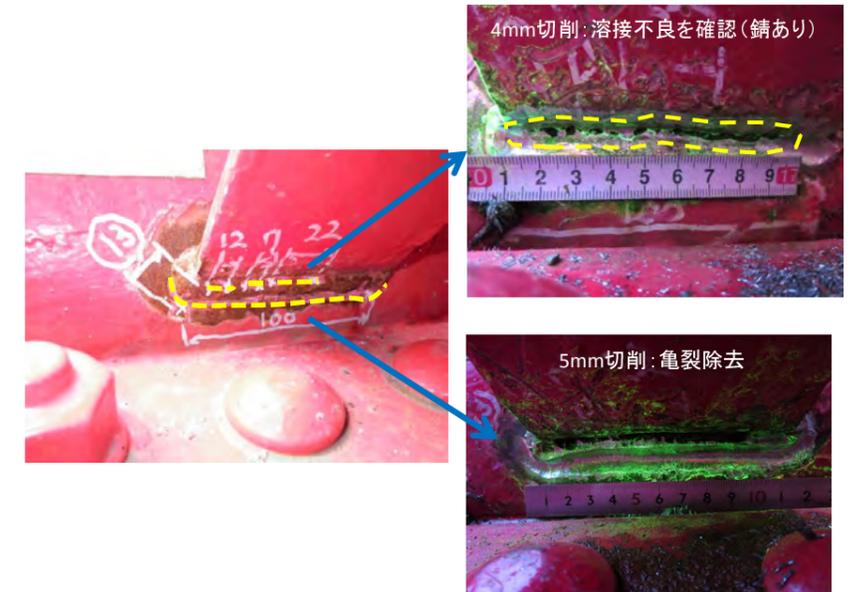
○ : SH実施済み      — : 亀裂      - - - : 切削除去

	VP01	VP03	VP023	VP25
VPL ⑤				
⑥				
VPR ⑤			亀裂なし	
⑥			亀裂なし	
⑦・⑧	亀裂なし		亀裂なし	亀裂なし

下弦材と垂直材接合部の亀裂除去事例(VPR25-⑤⑥)



溶接の不良箇所が見つかった事例(VPR01-⑤⑥)



※SH及び亀裂切削の仕上げ方法（共通）

【SH孔面】

- ① グラインダーで徐々に削孔し、指で母材裏面の状況が確認できる程度に削孔
- ② 磁粉探傷試験（以下、MT試験）を行い亀裂の先端を捉えているか確認
- ③ 孔壁を砥石#80以上で仕上げ、指で滑らかに仕上がっているか確認
- ④ 防錆処理して終了

【亀裂切削】

- ① 1mmずつグラインダーで切削⇒MT試験を繰り返す
- ② 母材の半分までを目安に切削し、亀裂が短くなるようであれば継続して切削
- ③ 応力集中しないように砥石#80以上で仕上げ、指で滑らかに仕上がっているか確認
- ④ 防錆処理して終了